令和６年度　小樽市立朝里中学校　学力向上改善プラン

１　生徒の実態

①前改善プランの定着目標の達成状況

【第１学年】

教科	定着目標	評価
国語	・情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを書くことができる。（チャレンジテストで平均点 70%以上達成）	58.3%
数学	・正の数、負の数の意味を理解し、基本的な四則計算ができる。（単元テストで 70%以上達成）	70.6%
	・基本的な一次方程式を確実に解くことができる。（単元テストで 70%以上達成）	70.6%

・国語科では、読み取った情報を活用するという部分で課題が見られる。授業の中で意図的に設定していく必要がある。
・数学科では、数値目標の達成ができた。一方、学年末の振り返りでは定着が甘くなっていたので、長期定着が課題である。

【第２学年】

教科	定着目標	評価
国語	・文章の内容や構成、表現上の特色を踏まえて自分の考えを書くことができる。（チャレンジテストで平均点 70%以上達成）	74.1%
数学	・１次関数の意味を理解し、表、式、グラフの関係を用いて、問題を解決することができる。（単元テストで 70%以上達成）	73.9%
	・連立方程式を確実に解くことができる（単元テストで 70%以上達成）	73.9%

・国語科では、数値目標の達成ができた。自分の考えを整理して言語化する力が全体的に伸びている傾向にある。
・数学科では、数値目標の達成ができた。一方、関数領域に苦手意識をもつ生徒の割合が大きいことが課題である。

【第３学年】

教科	定着目標	評価
国語	・複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事項や考えを明確にして書くことができる。（チャレンジテストで平均点 70%以上達成）	57.2%
数学	・平方根の意味を理解し、基本的な四則計算ができる。（単元テストで 70%以上達成）	66.4%
	・２次方程式を確実に解くことができる。（単元テストで 70%以上達成）	66.4%

・国語科では、複数の資料の情報を比較・分析し必要なものを取捨選択する部分に課題が見られる。
・数学科では、数値目標に約３%届かなかった。学習習慣の確立や基本的計算技能の未定着が原因と分析している。

②全国学力・学習状況調査結果（教科）：第３学年対象

・国語

分類	区分	平均正答率（%）	
		本校	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	67.7
	情報の扱い方に関する事項	56.9	63.4
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	74.7
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	78.3	82.2
	書くこと	52.5	63.2
	読むこと	54.4	63.7

・数学

分類	区分	平均正答率（%）	
		本校	全国
学習指導要領の領域	数と式	50.5	63.0
	図形	21.7	33.2
	関数	35.6	51.2
	データの活用	47.1	48.5

・国語科では、書くこと領域で大きな課題が見られた。自分の語彙を適切に繋げて文章化することに苦手意識が強い。
・数学科では、関数領域に全国との乖離がみられた。データの活用領域と比べ、抽象的な数学に苦手意識が強いと分析できる。

③標準学力調査：第２学年対象

国語（領域）	目標値	本校	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	65.6	61.8	66.7
情報の扱い方に関する事項	40.0	45.4	42.1
我が国の言語文化に関する事項	85.0	88.0	83.1
話すこと・聞くこと	66.7	61.8	67.7
書くこと	53.6	52.0	56.7
読むこと	57.5	64.3	61.2
数学（領域）	目標値	本校	全国
数と式	60.0	63.2	58.6
図形	58.8	67.0	60.1
関数	44.2	55.2	41.3
データの活用	50.0	54.2	44.9

・国語科では、情報の扱い方、言語文化、読むことで目標値を達成できた。今後は自分で表現する場面を意図的に増やしていく。
・数学科では、図形領域・関数領域で高い正答率を達成できた。この結果を生徒に還元し、今後の授業構築に活かしていく。

④その他検査（確認テスト、単元テスト、定期テスト等）

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第１学年）

教科	全道平均正答数との差			
	前年度末	１学期末	２学期末	全３回の差の平均
国語	−0.3	−0.9	−0.5	−0.6
数学	−0.5	−0.7	−1.1	−0.8

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第２学年）

教科	全道平均正答数との差			
	前年度末	１学期末	２学期末	全３回の差の平均
国語	0.4	0.2	−0.1	0.2
数学	0.6	−0.2	0.4	0.3

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第３学年）

教科	全道平均正答数との差			
	前年度末	１学期末	２学期末	全３回の差の平均
国語	0.1	−0.7	0.2	−0.1
数学	−1.8	−2.7	−1.1	−1.9

・国語科では、学年によって正答数と全道平均に差が見られる。長文を読み解くことに慣れが必要だと感じる。
・数学科では、全道平均を僅かに下回ることが多い。特に、長い問題文を読んで解答する問題に大きな課題がみられた。

⑤⑥全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）、家庭生活及び学習の状況等

・令和６年２月実施　生徒アンケート等の結果

質問項目	学年	結果
私は学校に楽しく登校している	１年	93.1
	２年	87.4
	３年	86.9
友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている	１年	90.3
	２年	89.9
	３年	95.1
毎日家庭学習を 90 分以上している	１年	8.3
	２年	6.3
	３年	36.1
平日、学習以外で、１日にどのくらいの時間、テレビやＤＶＤ、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか（４時間以上）	２年	26.4

・上記の結果から、生徒の心理的安全性が確保されていることで、協働的な学び合いが展開できていると考えられる。家庭学習については定期テストの前後で生徒に働きかけをしているものの、結果は伸び悩んでいる。平日のＩＣＴ機器等の利用については、生徒に１日の時間の使い方を考えさせることで、継続的に改善を図る。

２　学年ごとの定着目標（数値目標）

＜国語科＞

学年	定着目標
１年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。
２年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。
３年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、+0.3を超える。

＜数学科＞

学年	定着目標
１年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-1.0以内とする。
２年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.6以内とする。
３年	・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、+0.5を超える。

＜学習・生活習慣（家庭学習等）＞

学年	定着目標
１年	・毎日家庭学習を90分以上している生徒の割合を10%以上とする。
２年	・毎日家庭学習を90分以上している生徒の割合を10%以上とする。
３年	・毎日家庭学習を90分以上している生徒の割合を40%以上とする。

３　目標を達成するための具体的な方策

（１）基礎学力の確実な定着を図る取組

①各種調査等の分析結果から見えてきた、朝里中学校区の共通課題である、「問題を正確に読み取る力（読解力）」、「自分の考えを適切に相手に伝える力（表現力）」を育む場面を、全教科の学習場面に意図的に設定し、生徒の変容を図る。

②放課後学習会を通年で実施し、個別指導の充実を図る。また、長期休業中にも学習会を計画し、基礎学力の確実な定着を図る。

（２）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

①「小樽　授業づくりの５つのＳＴＥＰ！！！」に基づいた授業を展開する。基礎となる生徒の心理的安全性を確保した上で、子どもが主体となる場面を設定し、授業の終末場面では子ども自身が学びを振り返る時間を確保する。

②国語科では、教材の読み取りに終始することのないよう、自分自身が何をどこから読み取り、どう感じたかを話したり書いたりする場面を意図的に設定していく。生徒が間違いを気にせず、表現することに慣れていけるような授業づくりを目指す。

③数学科では、「間違ってもいいんだ」という心理的安全性を確保した上で、５つのSTEPのⅠ評価規準の明確化、Ⅲ子ども主体の活動の位置づけ、の２つを重点項目とし、日常の授業づくりに臨み、教科部会の中で日々改善を図っていく。

（３）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

①放課後学習会通信を発行し、生徒が自身の学習習慣や生活習慣を見直すきっかけとなる情報を提供する。合わせて、「おたるスマート７」の啓発にも努める。

４　実施計画

年月日	計　画　内　容
Ｒ６年	・令和６年度学力向上改善プランの提示
４月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・放課後学習会の実施（通年） ○Ｒ６全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査　自己採点 ○標準学力調査実施（第２学年）
５月	・小中一貫教育協議会（全国学力・学習状況調査の分析結果の交流）
６月	・全学年定期テストⅠ ・保護者、生徒アンケート①の実施及び分析 ・教職員自己評価アンケート①の実施及び分析
７月	○標準学力調査結果分析 ・第１回小中合同研修会 ・チャレンジテスト（１学期末問題）の実施
８月	・夏休み学習会の実施 ○Ｒ６全国学力・学習状況調査結果分析
９月	・学力テストＡ（第３学年） ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
１０月	・学力テストＢ（第３学年）、３学年定期テストⅡ ・地域公開日
１１月	・学力テストＣ（第３学年）、１，２学年定期テストⅡ ・第２回小中合同研修会 ・公開授業研究会
１２月	・チャレンジテスト（２学期末問題）の実施
Ｒ７年	
１月	・冬休み学習会の実施 ・３学年定期テストⅢ
２月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・保護者、生徒アンケート②の実施及び分析 ・教職員自己評価アンケート②の実施及び分析 ・１，２学年定期テストⅢ
３月	・第３回小中合同研修会 ○新学力向上改善プランの作成

５　評価方法

（１）基礎学力の確実な定着を図る取組

①各種調査等の結果を分析し、評価する。

②放課後学習会及び長期休業中の学習会への生徒参加数から評価する。

（２）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

①校内研修の取組である授業交流やミニ研修等の取組を通して、授業改善の進捗状況を確認し、評価する。

②各種調査等の結果を分析し、評価する。

③各種調査等の結果を分析し、評価する。

（３）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

①年２回実施する生徒アンケートから、生徒の変容を確認し、評価する。